

# 同志社中学校・高等学校

(様式 4-2 : 平成 30 年度 モビリティ・マネジメント教育 (交通環境学習) にかかわる学校支援制度  
実施結果報告書)

## 実施結果報告書

1. 学習名称: 叡電 八幡前駅プロジェクト (産学協同 第8期目) <教科外 特別活動 (同中学びプロジェクト) >				
2. テーマ: 地域の人にとっても、同志社生にとっても、大切な八幡前駅を自分たちの手でもう一度「素敵な駅」にしよう				
3. 実施教科: 教科外での特別活動として実施				
4. 関連単元: なし (活動の監修は、技術科・社会科)				
5. 実施単元数: なし (ただし、活動期間は 2018 年 4 月～2019 年 3 月の通年 (ミーティング回数は 26 回、活動時間の総計は 50 時間以上)				
6. 学年	中 1～3	7. クラス数	8. 生徒数	最大時 16 名
9. 実施内容 (別添資料: プロジェクト計画書を参照)				
<b>■プロジェクトの目標としては、以下 2 点である。</b>				
(1) 駅利用者の地下鉄への流出や、地域の少子高齢化によって活気を失っている叡電「八幡前駅」。地域や同志社にとって大切な「八幡前駅」を、自分たちの手でもう一度「素敵な駅」にしたい。				
(2) 第 8 期は、第 7 期に続き、交通環境学習 (モビリティ・マネジメント教育) の支援事業に認定され、“人や社会、環境にやさしい” という観点を継続的に加え、より都市環境・交通環境への貢献や還元度の高い学習活動に発展させる。				
<b>■具体的な実施内容の要点は以下ア)～ク) のとおりである。</b>				
ア) 前期からの継続メンバー 7 名 (3 年生有志) が春～秋の活動を進め、さらに全校生徒に対して有志メンバーを募集し、9 名 (1 年 7 名、2 年 2 名) が加わり、冬～春までさまざまに企画を行い、ほぼ通年で活動した。				
イ) 八幡前駅を分析 (リサーチ・フィールドワーク) し、特徴と課題をとらえ、誰にとってどのような魅力的な駅にしたいのか議論を重ね、コンセプト策定。「地域・交流」を生み出す「ココアツ」な駅をプロデュースして、その活動を地域に根付かせることまでをゴールに「持続可能な駅・地域」づくりを目指すことが決まる。				
ウ) これまで叡電に対して提案を行ってきた「待合室を駅につくる」提案をさらに踏み込むため、再提案のストーリー見直しやアンケート調査を実施。				
エ) アンケート調査により裏付けた「待合室」への期待と必要性を、駅で展開する魅力化プランとともに、再度、叡電へプレゼンを実施。				

- オ) デザイン人間工学の研究発表会にゲスト発表枠で参加し、大学生や企業担当者を相手に、中学生が活動についてポスター発表を行う
- カ) 日立のデザイン室でプロダクトデザインから企業のビジョンデザイン、未来のサービスデザインまでを担ってこられた丸山幸伸氏を講師による出前講義とワークショップ・懇談を実施し、未来の駅や地域サービスのありかたなどを学ぶ機会をもつ。
- キ) 季節ごとのイベントを増やすことを決め、「駅ハロウィン」「クリスマスデコレーション」「お正月イベント」「ココアツデー」といった、駅イベントを行い、地域住民や駅利用者、子育て世代の親子連れなどに多数参加してもらうことができた（装飾／参加型アート／飲料・菓子提供 等）
- ク) 台風 21 号により運休となった叡電鞍馬線の沿線の森林倒木被害について、叡電から状況を聞き、復興支援のため（京都の森林組合に対して）の募金活動を実施した。
- ケ) 叡電本社での役員・社員の皆さまへのプレゼンテーションも何度も実施。「駅ホームに待合室をつくる」という中長期的な提案も含め、活動の状況や次の提案について継続的な関係を構築している。
- コ) 学期毎の終業式で全校生徒への活動報告プレゼンを実施。駅への注目度を上げるだけでなく、イベントへの参加や駅利用を促している。
- サ) 活動についてのコミュニケーション web サイトを、最新動向の記事アップを行っていただける仕様（CMS・・・コンテンツマネジメントシステム）にリニューアルを図り、公開まで完成させた。

## 10. 学習のながれ

＜※プロジェクト計画当初は、秋以降から半年での学習活動期間を想定していたが、前期から継続した生徒メンバー（前年度2年生が3年生になった）が春夏も活動を希望したため、ほぼ通年での活動となった＞

2018年5月、前年度に提案した「駅に待合室をつくる（中長期的な企画）」について、叡電役員から意見を戻されたことについて皆で再検討する。

『本当に（駅に待合室が）実現したら、本当に駅利用者に喜んでいただけるのか、本当に活用していけるのか、もう少し明確になれば、それだけの投資をして待合室をつくるという判断も前に進む。今後継続して検討していきましょう』という回答から、[アンケート調査]を行って、声をあつめよう。数字で説得力をつけよう。本当のニーズをそこから掴んで、より具体的で現実的な企画を提案しよう。という方針が決まる。

5月26日に同志社中学校でオープンキャンパスが実施されることを狙い、約2,000人の来場者を対象に一般アンケートを実施。さらに、全校生徒1,000人も対象にアンケートを実施。また、メンバーで手分けして地域の店舗を訪問したり、駅利用者へのアンケート活動も行った。アンケートでどのような意見を集めたいのか？そのためには、どのような項目を立てて、どのような聞き方をすればいいのか？何時間もかけて議論をおこなって挑んだ。【資料A・B】

7月、叡電本社での、2度目の本提案の機会を得る。役員・社員10名を相手に、アンケート調査結果や、新たな待合室活用案を練った内容でプレゼンを行った。【資料C】これまで考えていた「人を集めるために待合室をつくりたい」という考え方から、「地下鉄にない駅の魅力をつくるのは、地域・交流がカギ。待合室を通して地域交流が生まれる」ために待合室が必要であるという主張に発展させた。また、アンケートで見えてきた「待ち時間の利用の主は、スマホ活用もカギ」というポイントも捉え、地域情報を流すモニターの設置や、それと連動したクーポン配布サービスをスマホと絡ませるといったアイデアも提案する。

8月、大阪で開催されたデザイン人間工学の研究発表会（主催：京都女子大学 山岡俊樹教授）にゲスト発表枠で中学生メンバーが参加し、八幡前駅プロジェクトの活動報告をポスター発表する機会を得る。【資料Dおよび映像記録あり】参加企業各社の研究者から、中学生によるソーシャルイノベーション活動（学習）として実践的で面白いと関心が寄せられた。

9月、台風21号により、叡電が甚大な被害を受ける

11月、日立のデザイン室でプロダクトデザインから企業のビジョンデザイン、未来のサービスデザインまでを担ってこられた丸山幸伸氏を講師による出前講義とワークショップ・懇談を実施し、未来の駅や地域サービスのありかたなどを学ぶ機会をもつ。「Business Origami」というシンキング・シュミレーションツールを使って、考えたサービスを深める体験をする。（東大や京大のデザインスクールでも使われたツール）【資料E】

時期を同じくして、プロジェクトの継承性をつくるため、新メンバーの募集【資料 F・G】を行った。また、台風被害について叡電担当者から報告も受け、(待合室についての検討が無期限に延期になったことも聞き) 被害を受けた叡電や沿線地域に対して何かできることが無いかな、プロジェクトとして検討することになった。

11月～1月にかけて、季節ごとのイベントを増やすことを決め、「駅ハロウィン」「クリスマスデコレーション」「お正月イベント」「ココアツデー」といった、駅イベントを行い、地域住民や駅利用者、子育て世代の親子連れなどに多数参加してもらうことができた(装飾/参加型アート/飲料・菓子提供 等)【資料H～M】

特に、地域交流が生まれる駅を目指して!と銘打って、初めての「お正月イベント」を実施し、この日限りの叡電公認1日駅長を務めた生徒による絵本読み聞かせコーナーや、台風被害復興支援募金、地域の写真展パネル掲出、ココアドリンク(こころがホッとする飲み物)の提供、子どもたちへのオカシなお年玉(お菓子)プレゼントなどの企画を行った。駅利用者をはじめ、近隣地域の住民に多数ご参加いただくことができ、その模様を、KBS 京都放送が取材してくださり、当日の夕方のニュース「news フェイス」内で放映された。

学期毎の終業式で全校生徒への活動報告プレゼンを実施。駅への注目度を上げるだけでなく、イベントへの参加や駅利用を促すことにも注力した。【資料N・O】

また、活動についてのコミュニケーションwebサイトを、最新動向の記事アップを行っていける仕様(CMS・・・コンテンツマネジメントシステム)にリニューアルを図り、公開まで完成させた。SNSでの情報配信もスタートした。

◆八幡前駅プロジェクト webはこちら

<http://js.doshisha.ac.jp/jhs/hmmpj/>

※現時点では、トップページのみの公開。

◆facebook ページ/instagram アカウント

「八幡前駅プロジェクト」で検索

★プロジェクトメンバーからのメッセージ

同志社中学校と叡山電車の産学協同プロジェクトとして7年前から始まった八幡前駅プロジェクト。たくさんの方に八幡前駅を知ってもらおう!八幡前駅を盛り上げよう!と日々活動しています。私たちが目指すのは 持続可能な地域・駅を作ること。

イベントを行なっていくうちに私たちが感じていた「アイデアを形にする喜び」や「地域の皆さんの笑顔」など、このワクワク感を、地域の人やイベントの参加者の皆さんにも感じてもらいたい ということで、自主的な気持ちを生み出すことにつながるのではないかと思うようになりました。

同志社中学校×叡山電車による産学協同の取り組み「八幡前駅プロジェクト」の web

サイトが公開されました。現在、中学生有志の 10 数名が活動しているプロジェクトの様子を配信していくプラットフォームとして、これからの活用にご期待ください。プロジェクトメンバーで実際にデザイン会社の皆さんとお話しして、思いや願いがたくさん詰まったホームページとなっています。About, news, vision, photo のページにつきましてもどんどんアップされていきますので、ぜひチェックしてみてください！ホームページから八幡前駅の公式フェイスブックページなど SNS にも飛べますので、ぜひそちらもチェックしてみてください！！」

以上

※学習で使用した教材やワークシート、学習風景を撮影したビデオや写真、指導計画書などを添付して提出してください。